

ティーチング・ポートフォリオ

大学名 人間総合科学大学

所 属 保健医療学部看護学科

名 前 松村 広美

作成日 2023年9月15日

1. 責務 (何を行っているか、何を果たしているか)

わたくし松村広美は看護学科の教員として、講義・実習指導を担当しています。また委員会活動・担任業務も担当し、過去1年間の担当は以下の通りです。

1.担当科目

- 1)急性期看護援助論Ⅱ：看護学科2年必修科目
- 2)リハビリテーション看護論：看護学科2年選択科目
- 3)急性期看護学実習：看護学科3年必修科目
- 4)慢性期看護学実習：看護学科3年必修科目
- 5)統合実習：看護学科4年必修科目
- 6)看護研究Ⅱ：看護学科4年必修科目

2.担当委員会、係

- 1)学科危機管理衛生委員会
- 2)学習支援ワーキング
- 3)担任業務：2学年12期生
- 4)高大連携事業：体験授業

私の担当する講義・実習指導は、学部2・3・4年生が対象です。学生のレディネスは、基礎知識を修得し、一定以上の知識・身体的機能を持ち合わせています。しかし精神的な発達の程度は個人差があり、ストレスや人間関係次第では学習意欲を持てなくなるなど、不安定な青年期にある学生でもあります。特に担当する2年生は、基礎知識の不足から各論の講義の理解が困難であり、グループでLTDができるようセッティングして、教員も同席して質問に答えたり、発問するなど個人に合わせた指導を行っています。また、入学時から資格取得を目指してはいるものの、様々な要因から将来に迷いが生じやすい時期でもあります。このような学生に対して、資格を取得するというモチベーションを維持させ、学習意欲を低下させないように指導・教育していかなければならないと考え、日々取り組んでいます。

2. 理念 (教育に対する考え方)

看護はすべての人が対象であり、対象を全人的にとらえ思いやりを持って接していかなければならないと考えます。身体的な苦痛のみではなく、心理的、社会的な背景を包含し、その人を丸ごととらえて看護しなければ、苦痛からの解放は困難であると考えます。急性期看護に携わり、手術による身体的苦痛にさらされた対象の看護を展開してきましたが、鎮痛剤の投与だけでは苦痛を緩和することが難しい患者さんもいて、寄り添い、その人らしさを尊重することで苦痛から解放されたり、家族との関係を調整することで回復意欲をみせる患者さんもありました。こうした経験を活かして、学生に看護のすばらしさを伝えられるように努めていきたいと考えています。

3. 方法 (教育方法において大切にしていること)

私が日々心掛け実践していることは、臨床看護師としての経験を、看護学教育の教材として活用し、学生に伝えていくことです。看護は「実践の科学」と言われるように、教科書からの知識だけでは実践に結び付けることが困難な場合があります。3年次の実習では、対象の思わぬ言動や態度に戸惑い、時

には自分中心になってしまうことがあります。そんな時は患者目線になり、相手を思いやる気持ちを想起させることが重要だと考えます。経験が浅い学生に対して、教員の経験から考えられることをアドバイスしたり、類似した事例を提示し、この場合どう対処することが適切であったかを考えさせるようにしています。目の前で展開される看護と既習の知識を結び付けられるようアドバイスしていくことが目標達成につながると考えます。また、私は臨床経験は長いですが、教員としては講義の展開の技術は未熟です。看護実践経験を伝えるばかりではなく、講義の中でその事例の意味付けを考え、教材化しなければ講義の目標達成が困難であると考えます。教員としての未熟さを自覚し、講義の展開方法の研鑽を積み、学生が興味・関心をもって講義に臨めるようにしていきたいと考えます。

4. 成果（学生さんからの評価に対して、学生さんの学修成果について）

2022年度授業アンケート調査の集計において「急性期看護援助論」の評価は2.8でした。この講義に関してはオムニバス形式であり、評価は担当した複数教員の評価です。私が担当した講義は1コマだけでしたが、評価に関する個人名のあるコメントでは、「松村先生はわからない部分を質問した際に、否定的な態度を示さずわかりやすく答えてくれました」とありました。また、講義後のアンケートでは、資料がわかりやすかった、話すスピードがちょうどよくわかりやすかった等の感想をいただいています。講義の目標が達成できるよう、学生の反応を見ながら理解が困難なところはさらに丁寧に説明し、学びを深められるような工夫をしていきたいと考えます。

5. 目標（教育活動の中短期目標と達成時期）

教育活動の中短期目標

1. 講義では経験の少ない学生を対象とするため、自身の経験を踏まえた知識を提供し、知識と経験が結び付くよう発問や質問を取り入れ、時には演示を行い思考を刺激するように展開する。
2. 臨地実習では、病院で展開される看護師の直感的な患者理解が、どのような知識に基づいているのかを解説し、学生の理解を深める。
3. 初学者である学生が看護を提供する際には、目の前で起こっている患者の反応がどういう現象であるかを教材化して指導する。

達成時期

いずれも年度末（令和6年3月）

* 表紙を含め、全体として、3～10ページ程度とします。

【添付資料】

- * TPの記載内容を客観的に示すためのエビデンスとなる資料項目を箇条書きで列挙ください。（シラバス、開発教材、学生アンケート等、特に特徴的なものを列挙し、必要に応じて、すぐに確認できるようにしておきます。）